

㊦ B-28 縫製の筋電図学的研究 (第II報)
運針習熟過程とその運動方式について

愛知淑徳短大 神谷い代子
古田 幸子
○山田 稔子

1. 手動縫合が主になって縫製される和裁においては、運針がその基本要素であり、従来よりその習熟が極めて重要視されている。これら伝統的運針技能を、科学的に解明し、且つ、その基礎理論と指導方法上の根拠を樹立すべく本研究を意図した。

2. 先ず運針時における技能習熟過程について、筋肉並びに神経生理学的立場から検討してみた。具体的には短期大学一学年の学生数名を被検者とし、事前に運針の上達法と目される種々の条件があるオーダーを以って指示し、そのオーダーによる習熟過程に従って作業をさせ、その作業内容を運針技能の成果と、その運動方式の関係から比較検討した。運針時に主要な働きを持つと見られる、上肢筋の筋電図記録、並びに上肢の動作ポイントとする位置の軌跡記録、運針作業時間、縫目の成果などを手がかりとした。

3. 技能程度の高い者ほど全般に左右の腕の運動差がはげしく、低い者ほど小さくなっている。条件指示においては、技能程度の低い者も指示によってある程度の進歩が見られた。運針速度においては技能程度の高い者と低い者との差はかなり著明であるが、低い者に速度を要求した場合、縫目の乱れが顕著となり、針を持つ右腕の筋電図の増高が目立った。